

【小学校 作文 優秀賞】

いのちのチェーン

那覇市立開南小学校 二年

鈴木 愛凜

ことしの春のえんそくは、どしゃぶりの雨でした。バスの中から出ることができなくて、ドライブになりました。どしゃぶりの雨を見ていると、わたしのひいおばあちゃんが教えてくれた、お話をおもいだしました。

ひいおばあちゃんが十三才の時、せんそうがありました。大雨の中、妹をおんぶしてアメリカのへいたいに見つからないように、山の中ににげたそうです。つかまつたら、いのちがあぶないとおもって、こわくてたまらなかつたそうです。

ある朝、もう体がくたくたになつたので、白いはたをもつて山からおりることにになりました。そして、アメリカのへいたいに見つかり、トラックにのせられました。

ひいおばあちゃんは、トラックからとびおりて、にげだしたそうです。でも、すぐにへいたいにつかまつてしまい、だっこされて、トラックへもどされたそうです。よつほどこわかつたのだとおもいます。きつと、たくさんいたとおもいます。

わたしは、ひいおばあちゃんが生きていてくれて、ほんとうによかつたです。だって、ひいおばあちゃんがおばあちゃんをうんで、おばあちゃんがお母さんをうんで、お母さんがわたしをうんでくれたからです。チェーンのように、いのちがつづいているのは、ひいおばあちゃんが、ゆうきをもつて生きてくれたおかげです。今のへいわなぐらしをつくってくれたことにかんしゃします。

このいのちのチェーンは、これからもつないでいきます。わたしは、つよくてやさしくて、キラキラかがやく「わ」になります。

かぞくのチームワークをたいせつにします。そして、しょうらい、わたしもお母さんになって、じぶんの子どもに、ひいおばあちゃんのことを、つたえていきたいです。